

新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 片岡 禹雄



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族とともにご健勝で新年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

今日の経済・社会情勢は、税と社会保障、経済政策、原発、領土問題をはじめとした外交、そして、TPP交渉参加問題など今後の日本の在り方が問われる重要な諸問題が山積しております。

経済政策では、長期化する経済低迷の中で、実効性のある成長戦略が求められていることからインフレ率の目標設定が不可欠な情勢となっております。

外交政策では、中国や韓国との

領土問題に端を発して、日・中韓関係は悪化し、国内経済に大きく影響し、日米関係とともに近隣諸国・アジア地域との良好な関係をどう構築していくか重要な局面を迎えております。

今後の国の在り方を左右するTPP(環太平洋連携協定)については、一昨年11月、野田首相が交渉参加に向け、関係国との協議入りを発表したことは、例外なき関税撤廃と金融・保険・医療・サービス業など幅広い分野の規制廃止は『この国のかたち』を一変させ、どの分野においても死活問題となっておりま。

JAGグループ北海道は、農林漁業をはじめ経済団体・消費者団体とともに「TPP交渉参加の断固阻止」運動を展開して参りました。

昨年の12月には、税と社会保障、原発被災地の復興対策、外交問題、TPP交渉参加など課題山積の中で、国民に真が問われる民主党政権下で初の国政選挙が行われましたが、16日の国民の審判で自民党

が圧勝し、3年前に明け渡した政権を奪還しております。次期政権を担う自民党に対しては、農政の安定と地方再生を託した農家の声を受け止め、「聖域なき関税撤廃を前提にする限り交渉参加反対」という公約の堅持を求めていく運動に引き続き取り組んで参ります。

JAGグループを巡る動向は、第26回JAG全国大会及び第27回JAG北海道大会(平成24年11月21日開催)が開催され、地域におけるJAの役割について、1「持続可能な本道農業の実現に向けた運動の展開」、2「次代を担う協同」の実践について決議されています。

今後もJAGグループの一員として、この実践に努めて参ります。

昨年の地域農業については、世界規模での異状気象が続く中、8月～9月における連日の高温多湿で農畜産物への障害が心配されましたが、大きな影響もなく、また、各作目とも収穫時期の天候にも恵まれたことから、総じて豊穰の秋を迎えることができ、全体の取り扱い数量及び金額で当初計画額を上回る実績となりました。

今日の経済不況で、消費低迷による売り上げ不振が続いているな

か、地域の基幹5品目は各振興会を中心に「安全・安心・良品質確保」に取り組んできた成果であり、各位のご労苦に敬意と感謝を申し上げます。

中でも戦略作目として位置付けているミニトマト「太陽の瞳」については、安定収入が見込めることから他産地との競争が続く中にあつてもブランド商品として、需要が高く、猛暑での収量減にもかかわらず、高値で推移し、前年同様7億円を突破することが出来ました。

黒毛和牛については、震災後の放射性セシウム問題により牛肉の消費減少に加え、国内経済の減退により枝肉価格の低迷など厳しい情勢が続きましたが、良質牛の出荷により計画及び前年実績を上回る取り扱いとなりました。

当地区の農業粗収入の50%超を占める軽種馬については、地方競馬場の廃止などにより、販売不振と価格低迷が続いていることから、依然として厳しい情勢下にありません。このため飼養戸数及び頭数も年々減少しております。

市場販売頭数及び販売額は、567頭、19億8300万円、